令和３年度　国富町立木脇小学校　学校評価・自己評価書

【学校経営ビジョン】　「目がとどく、声がとどく、心がとどく」教育の実践と教職員の指導力・学校の組織力の向上によって、「自ら学び、豊かな心とたくましい体をもち、自分のよさを発揮しながら、進んで実践する児童の育成」を図る。

４段階評価　　４：達成（期待以上）　　３：ほぼ達成（ほぼ期待どおり）　　２：不十分（やや期待を下回る）　　１：改善を要する（期待を下回

		評価項目(指標)	具体的目標	方策・手立て	自己評価 児童	保護者	教師	総合	学校の自己評価コメント（○:アンケート結果、 ◇:結果の考察・分析と改善策等）
進んで学ぶ子を育てる	1	基礎的・基本的な内容の定着（ＩＣＴの活用）	授業がよく分かると答えた児童が80%を超える。 児童がICT機器（タブレット等）を100%使用できる。また、学習の内容理解を深めるために自分の考えや意見を伝えることができる児童が70%を超える。	教職員がICT機器の使い方を知り、どの場面でどのように使うかを考え、授業改善に生かす。 児童が基礎的、基本的な内容をより深く理解するために、機器の使い方（ルールやマナーも含む）を指導し、活用の仕方（発表やドリル等）を学ばせ、どの教科にも生かして自分から考えや意見を言えるようになる。	3.5	2.7	2.9	2.7	○児童・保護者アンケート結果で、３または４を選んだ肯定的な評価の合計 ○　子どもは各時間の授業は分かっているように思うが、課題は定着にあると考えられる。また、理解できていない子どもにとって、それが積み重なっている。下校後の時間の使い方について、具体的に保護者に啓発していくことが必要。ゲームを優先し、家庭学習がおろそかになっている可能性はないだろうか。家庭学習を通して、その日の学習内容や苦手な部分の把握を行っていただき、学習の定着を図る等家庭との協力が必要。 ◇　スキルタイムの時間を確実に確保し、定着の低い子どもに対する個別指導を行う時間にする。(他の児童については、学力向上の時間に充てる。)時間管理の必要性について、保護者に理解を求めていくことが必要。また、教師側もチャイムとともに授業を終了するという意識をもつことが重要。また、タブレットに頼らない子どもの分かる授業作りを目指す。
	2	学習意欲の向上	考えを伝え合ったり、進んで発表したりすることができたという児童が80%を超える。 学習時間(集中して取組んでいる時間)	学ぶことの充実感・達成感のある授業を行う。 毎日の学習のふり返りや次の学習への見通しをもてるように、家庭と連携し、手立てを講じて学習に取り組むことができるようにする。	3.0	2.5	2.4		○児童・保護者アンケート結果で、３または４を選んだ肯定的な評価の合計 ○　タブレット中心の授業にすると、対話はなくなってしまう。 ◇　タブレットを中心とせず、子どもが「できた」「わかった」と言える授業作りが必要。子どもが勉強することを「楽しい」と感じるような教材の準備など手立て(教材研究等)を考えていく。また、劣等感や不安感をもつ子どもに対するサポートをしていく。友達を真似て身に付けていくことの重要性を知らせていく。反対に真似されることの意味を知らせていく。学び合いの場の設定を大切にする。
	3	読書活動の推進	低学年は月10冊、中学年は月6冊、高学年は月3冊以上読む児童が80%を超える。	読書を啓発するポスターやお勧めの本を知らせる掲示、委員会活動を中心とした読書ビンゴ等に取り組むとともに、学期１回の多読賞、読書の日への取組の推進を行う。	3.1	2.3	2.3		○児童・保護者アンケート結果で、３または４を選んだ肯定的な評価の合計 ○　全体的には，読書量が増えてきている。反対に，図書室に足が向かない子どもがいるのも事実である。また，本の扱いについて公共のものを大切にすることの意識がまだ低い。 ◇　各学年の貸出冊数をこまめに確認し，読書への啓発を行う。教師の読み聞かせを随時導入していく。家庭学習における読み声のあり方について，今後見直していくことが必要。
思いやりのある子を育てる	1	規範意識の高揚	学校や家庭、地域が連携を図り、時と場に応じたルールやマナーを守る児童の育成を目指す。（きまりを守る児童100%）	家庭や地域に生徒指導だよりやまちコミメール等で情報を発信するとともに、児童に集会や授業等できまりについて話し、常時指導を行うことで、規範意識を高める。	3.6	2.9	2.6	3.1	○児童・保護者アンケート結果で、３または４を選んだ肯定的な評価の合計 ・交通ルール・学校のきまりを守る…児童９５%、保護者９２% ◇児童・保護者ともに肯定的な自己評価の割合が高いが、廊下歩行や無言の場についての指導をさらに充実させるために見届ける必要がある。また、当たり前のことが当たり前にできるような習慣化をさらに図っていく必要がある。
	2	あいさつ・会釈の啓発	大きな声で気持ちのよいあいさつをしたり、会釈ができる児童が80%を超える。	木脇小・中及び保護者、地域住民との連携を図り、あいさつ運動を推進するとともに、会釈の指導と実践できた児童への称賛に努める。	3.4	2.9	2.7		○児童・保護者アンケート結果で、３または４を選んだ肯定的な評価の合計 ・大きな声で気持ちのよいあいさつ、会釈…児童８９%、保護者７３% ◇小・中合同のあいさつ運動は実施できなかったが、計画集会委員会・生活ボランティア委員会による月・水・金曜日を中心とした輪番でのあいさつ運動により、あいさつについての児童の意識は向上している。継続と工夫に努めたい。
	3	思いやり （感謝や貢献の心）	思いやりのある言動ができると答えた児童(保護者)の割合が70%を超える。	道徳の指導や人権の時間を充実させるとともに、教育活動全体を通して、思いやりの心を育み、あわせて、ボランティア活動の自発的・自主的な取組やよい行いをした児童は積極的に称賛していく。	3.5	3.2	2.8		○児童・保護者アンケート結果で、３または４を選んだ肯定的な評価の合計 ・友達への優しさ・思いやりのある行動…児童９１%、保護者８７% ◇困っている友達に声をかけたり手伝ったりする行動が随所に見られるが、言葉遣いや名前の呼び方については課題が見られる。児童同士の問題発生の際は、複数の職員で聴き取りや指導を行っている。道徳教育並びに人権教育の充実にさらに努めていく。
たくましい子を育てる	1	体力や運動能力の向上	休み時間・体育の時間に、進んで体を動かしている児童が70%を超える。	体育の時間の指導を中心に、運動の喜びを味わわせるとともに、昼休みに週2回以上外遊びを行うように啓発する。	3.5	3.2	3.2	3.2	○児童・保護者アンケート結果で、３または４を選んだ肯定的な評価の合計 ・楽しく運動したり、外で遊んだりしている…児童８６%、保護者８２% ◇新型コロナウイルス感染症対策として、密を避けるための対策が、結果的に外遊びを制限してしまった。昼休みには外遊びなどの運動を行うように啓発する。
	2	健康的な生活習慣の確立（新型コロナウイルス感染症予防）	手洗い、うがい、歯みがき、消毒、マスク着用を確実に行い、けが・病気の予防や立腰に努める児童が70%を超える。	感染症予防・衛生指導を徹底し、病気の予防、安全意識の啓発や立腰指導の徹底を図る。	3.6	3.2	3.0		○児童・保護者アンケート結果で、３または４を選んだ肯定的な評価の合計 ・手洗い・うがい、食後の歯みがき・マスク着用…児童９２%、保護者８６% ◇手洗い・うがい、、マスク着用については、児童は習慣化している。長引くコロナ禍によって保護者の意識も高まってきているのではないか。今後も継続していく必要がある。
	3	食のマナーの徹底	食事のマナーを考えながら、食事ができる児童が70%を超える。	気持ちよく食事をするためのマナー指導を行う。	3.6	2.8	2.6		○児童・保護者アンケート結果で、３または４を選んだ肯定的な評価の合計 ・食事のマナーを守っている…児童９２%、保護者６９% ◇「食事のマナー」については、児童と保護者の間で評価のずれが大きい。家庭と連携しながら取り組む必要があるが、朝食を含めた基本的な生活習慣が身に付いていない児童（毎日食べている。平日85%、休日71%）もいるため、引き続き啓発をしていく。
開かれた学校をつくる	1	家庭や地域への情報の積極的な発信と共有	まちコミメール登録数を95%以上にし、常に情報発信を行い、共有できる体制作りをする。 通信やホームページの更新などを月１回以上定期的に行い、情報発信に努める。	学校通信・学級通信等をを発行し、児童の教育活動の状況を知らせ、情報の共有化を図る。 学校ホームページやまちコミメールを効果的に活用し、児童の活動の状況や緊急を要する連絡等をすぐに知らせるようにする。		3.0	3.0	2.9	○保護者アンケート結果で、３または４を選んだ肯定的な評価の合計 ・学校文書、通信、ホームページ等で、学校の取組や児童の様子がよく分かる…８２% ◇学校通信は定期的に、学年・学級通信は随時発行している。ホームページは更新が進むときとそうでないときがある。更新方法の工夫により、情報提供に努めたい。
	2	学校支援地域本部事業等の有効活用とキャリア教育の推進	学校支援コーディネーターを中心に、地域人材（企業等）の活用を推進する。（各学年一人は活用する。） キャリア教育に関心をもたせ、自分の将来について考えさせる。	学びと体験の共有を目指した校外学習等を企画・運営し、地域の方々の人材活用を積極的に行う。活用した人材に関しては、記録を残し、今後の財産として共有し、活用できるようにする。 キャリアパスポートを活用して、今後の自分の生き方について考えることができる機会を作る。		2.8	2.9		○保護者アンケート結果で、３または４を選んだ肯定的な評価の合計 ・学校は地域や保護者の方々と一体となって教育を進めている…８１% ◇国富音頭（１年）、ピーマン学習（２年）、いも苗植え・収穫（３年）、生活習慣病予防講座、水質調査（４年）、米づくり（５年）、きわきっ子フェスタ等で地域の皆様に御支援いただき、活動を進めることができた。コロナの状況に応じて活動の工夫や授業と人材活用の関係の調整を検討していきたい。
	3	関係機関との連携	連携型小中一貫教育を推進する。 青少年育成協議会、社会福祉協議会等との連携・協働を行う。 町福祉保健委員、民生委員・児童役員、スクールソーシャルワーカー等との連携を行う。	木脇ブロック研修会を行い、小中学校職員の共通理解をもとに９年間を通して児童を育てる。 参観日やオープンスクール、PTA行事等を活用して保護者の参加率を高め、児童と地域の方々の交流を図る。 地域の方々と情報を共有したり、気になる児童に対して関係機関と協力して随時ケース会議等を開いたりして、児童の健全育成を図る。		2.5	3.1		○保護者アンケート結果で、３または４を選んだ肯定的な評価の合計 ・学校は、児童の健全育成を目指して、中学校や関係機関等と協力して活動している…７２% ◇新型コロナ感染拡大防止のため、参観日と懇談会は限られた回数での実施となった。次年度、コロナの状況に応じて、参観日の実施方法の工夫を検討していきたい。関係機関との連携を積極的に図ることができた。しかし、中学校との連携は限定的だった。次年度は、コロナの状況に応じて連携の在り方を工夫していきたい。